



第 51 回 愛媛形成外科研修会

抄 録 集

日 時 令和 5 年 11 月 25 日 (土) 17 時 00 分～

場 所 愛媛県立中央病院 管理棟 1 階 講堂

愛媛県松山市春日町 83 番地

TEL : 089-947-1111 (代)

当番世話人

愛媛県立中央病院 形成外科 中川 浩志

第 51 回 愛媛形成外科研修会

研修会について

1. 参加受付は、16 時 30 分より会場で行います。
2. 参加費として 2,000 円を受付にて申し受けます。
今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。
「領域講習」として受講される専門医の方は受講料として 1,000 円を申し受けます。
3. 演者の方でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 一般演題での発表時間は、一題あたり 5 分と 3 分、質疑応答は 3 分を予定しています。
5. PC は Windows 10、PowerPoint を使用しての発表になります。なお、OS、バージョン等の影響で調整等が必要になる場合があります（当日は、USB メモリーあるいは PC 本体をお持ちください）。
6. 当日、駐車場をご利用の方は、無料ライターを準備しております。
駐車券を受付までお持ちください。

愛媛県立中央病院への交通アクセス

地図



伊予鉄道

松山市駅から南へ約 800m
※徒歩 15 分

伊予鉄道路線バス

市坪・はなみずき線
県病院前バス停下車すぐ
都心循環東南線
県立中央病院バス停下車すぐ

松山市春日町 83 番地

TEL : 089-947-1111 (代)

会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	36 名
第 36 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 27 年 11 月 21 日	27 名
第 37 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階多目的ホール	平成 28 年 6 月 11 日	32 名
第 38 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 28 年 12 月 10 日	30 名
第 39 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 3 階中会議室①②	平成 29 年 6 月 24 日	36 名
第 40 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 本館 3 階研修室	平成 29 年 12 月 9 日	32 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 41 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	松山赤十字病院 4 階多目的ホール	平成 30 年 6 月 9 日	27 名
第 42 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 30 年 12 月 1 日	28 名
第 43 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	令和元年 6 月 22 日	31 名
第 44 回	中川 浩志 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 管理棟 1 階 講堂	令和元年 12 月 7 日	37 名
第 45 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	オンライン開催	令和 2 年 12 月 12 日	28 名
第 46 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	オンライン開催	令和 3 年 6 月 12 日	35 名
第 47 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階 多目的ホール	令和 3 年 12 月 4 日	23 名
第 48 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	松山赤十字病院 4 階多目的ホール	令和 4 年 6 月 4 日	32 名
第 49 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	令和 4 年 11 月 19 日	31 名
第 50 回	山下 昌宏 (四国がんセンター 形成外科)	ANA クラウンプラザ ホテル松山	令和 5 年 6 月 10 日	30 名

プ ロ グ ラ ム

Section I (17:00~17:40)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 岡田 将誉 先生

1. 慢性拡張性血腫2症例の報告 (5 分)

松山赤十字病院 形成外科 井上 拓人

2. 創傷 蠅 蛆 症患者の報告 (5 分)

松山市民病院 形成外科 上村 由美子 他

3. 先天性表皮水疱症に自家培養表皮を用いた治療経験 (3 分)

市立宇和島病院 形成外科 檜垣 ひろみ 他

4. 叢状神経線維腫に対するセルメチニブの使用経験 (5 分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 泉本 真美子 他

5. 膀胱癌に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術後に腹壁筋間に孤立性ポートサイト再発を来した症例の治療経験 (5 分)

愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他

Section II (17:40~18:20)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 先生

6. 大腿筋膜を用いて修復した腹壁癒痕ヘルニアの一例 (5 分)

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍科 辻口 大介

7. 美容医療後の下眼瞼外反に対し筋膜移植術を行い、感染をきたした一例 (5 分)

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 浅野 遥奈 他

8. 縫縮したが離開した臀部褥瘡の症例 (5 分)

済生会松山病院 形成外科 三宅 啓介

9. 後大腿皮弁・大臀筋皮弁術後の坐骨部褥瘡再発に対して IPAP flap で再建した 1 例 (5 分)

住友別子病院 形成外科 安藤 穂南 他

10. Transcaruncular approach と下斜筋切開を併用した swinging eyelid approach により治療した眼窩内側壁・下壁合併骨折の 2 例 (5 分)

徳島赤十字病院 形成外科 戸田 皓大

休憩 (10 分)

総会 (18:30~18:45)

特別講演 (18:45~19:45)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 中川 浩志 先生

「初回手術にも二次手術にも対応

ユニットでとらえる片側口唇裂手術のデザインと筋層処理」

講師:北九州市立八幡病院 副院長、形成外科 統括部長 田崎 幸博 先生

共催: 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

Section I (17:00~17:40)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 岡田 将誉 先生

1. 慢性拡張性血腫2症例の報告

松山赤十字病院 形成外科

○井上 拓人

(5 分)

慢性拡張性血腫 (chronic expanding hematoma) は手術や外傷を契機として発症し、1 ヶ月以上の経過で形成することが知られている。今回、術後 16 年間経過観察が行われたが、消退せず増大を続け、疼痛を生じたため摘出した例、外傷後に形成された血腫に対して数回の穿刺吸引をおこなったが消退せず、手術により摘出し、慢性拡張性血腫の診断となった例の2症例を経験したため報告する。

2. 創傷 蠅 蛆 症患者の報告

松山市民病院 形成外科¹⁾、愛媛大学附属病院 形成外科²⁾○上村 由美子¹⁾、手塚敬¹⁾、川野貴大¹⁾、村上達郎²⁾

(5 分)

創傷蠅蛆症とは、創傷に maggot が寄生した病態であるが、貧困な状況やアルコール依存症、ホームレスなどのバックグラウンドがあることが多い。令和の世の中になり 5 年が経過しようとしているが、いまだに maggot が発生した創傷で、受診される患者がいる。令和元年より 3 例経験したので報告する。

症例 1. 74 歳男性、左踵の糖尿病性潰瘍に maggot が発生。

症例 2. 45 歳男性、左足壊疽に maggot が発生し、救急搬送。仙骨部～下肢の多発潰瘍を認め壊死性筋膜炎であった。

症例 3. 89 歳男性、右上腕 SCC の腫瘍と潰瘍に maggot が発生。

3. 先天性表皮水疱症に自家培養表皮を用いた治療経験

市立宇和島病院 形成外科¹⁾、市立宇和島病院 皮膚科²⁾

○檜垣 ひろみ¹⁾、眞田 紗代子¹⁾、薬師寺 直喜²⁾

(3 分)

自家培養表皮(ジェイス®)は、2018 年 3 月より先天性表皮水疱症に保険適応となった。今回 54 歳女性、頭部の 35 年来存在する潰瘍に対し自家培養表皮を用いた。術後 3 日目の初回ガーゼ交換時に緑白色の膿を認め、局所的なデブリードマンを行なった。7 日目にわずかに生着したように見えたが、術後 3 週間ですべて脱落した。今回のような長期的に存在する潰瘍に対し、培養表皮生着のために必要な加療や改善点などご意見をいただきたい。

4. 叢状神経線維腫に対するセルメチニブの使用経験

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○泉本 真美子、戸澤 麻美、船木 杏奈、浅野 遥奈、村上 達郎、森 秀樹

(5 分)

神経線維腫症Ⅰ型における叢状神経線維腫に対してセルメチニブ(コセルゴカプセル®)が 2022 年 11 月より 3 歳~18 歳を対象に保険適応となった。当科で 2023 年 1 月より 2 例処方開始した。症例 1: 8 歳男児 左側頭部。症例 2: 12 歳女児 右胸部。病状の変化や副作用など経過を報告する。

5. 膀胱癌に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術後に腹壁筋間に孤立性ポートサイト再発を来した症例の治療経験

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎 中川 浩志 岡田 将誉 土居 未歩

(5 分)

症例は 62 歳女性。60 歳時に膀胱癌に対して泌尿器科でロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術および回腸導管造設術を施行された。術後 1 年 2 ヶ月時に左外腹斜筋～内腹斜筋筋間に約 2 cm の孤立性腫瘍ありポートサイト再発と診断され、泌尿器科で化学療法施行後の腫瘍切除依頼のため当科に紹介された。当科ではまれな手術であったが全麻下で周囲軟部組織を含めて腫瘍切除を行い、病理診断で膀胱癌の転移、断端陰性と診断された。術後 5 か月時点で再発はみられない。

Section II (17:40~18:20)

座長:愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 先生

6. 大腿筋膜を用いて修復した腹壁癒痕ヘルニアの一例

四国がんセンター 形成・再建・皮膚腫瘍科

○辻口 大介

(5 分)

症例は 51 歳女性。11 年前に胃癌に対し幽門側胃切除術が施行され、その半年後に腹壁癒痕ヘルニアを生じた。経過観察となっていたが半年前から腹痛、便秘の症状が出現したため当科紹介受診。直径 6cm 大のヘルニア門を認め、大腿筋膜を用いた腹壁癒痕ヘルニア根治術を行なった。腹壁癒痕ヘルニアについての知見を若干の文献的考察を加えて報告する。

7. 美容医療後の下眼瞼外反に対し筋膜移植術を行い、感染をきたした一例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○浅野 遥奈、戸澤 麻美、船木 杏奈、泉本 真美子、村上 達郎、森 秀樹

(5 分)

71 歳女性。上眼瞼の下垂を主訴に近医眼科を受診したが、下眼瞼外反も認めるため先に下眼瞼外反の手術を勧められ、当科紹介受診した。美容医療の既往があり頬部の皮膚が硬く腫大していたため、眼瞼のみの手術では矯正不能と考え筋膜移植による下眼瞼の吊り上げ術を行った。術後感染を来したためデブリードマンと洗浄処置を行い沈静化したが、瞼裂狭小を認めるため修正術を検討している。対応に難渋している症例のため報告する。

8. 縫縮したが離開した臀部褥瘡の症例

済生会松山病院 形成外科

○三宅 啓介

(5 分)

症例は 54 歳女性。脊髄損傷を背景とした臀部褥瘡に対して、全身麻酔下に潰瘍切除を行った。さらに股関節屈曲位で縫縮を行った。術後安静制限をしなかったが離開した。後に皮弁で閉鎖した。教科書によっては、褥瘡に対する縫縮も容認されているが、その適応についてご意見を伺いたい。

9. 後大腿皮弁・大臀筋皮弁術後の坐骨部褥瘡再発に対して IPAP flap で再建した 1 例

住友別子病院 形成外科

○安藤 穂南、岡本 かよ、安井 史明

(5 分)

52 歳、男性。脊髄動静脈奇形による脊髄損傷で下半身麻痺がある。両側坐骨部褥瘡を繰り返しており、他院で複数回の手術歴がある。今回、右坐骨部のⅣ度褥瘡で当院受診され、内陰部動脈穿通枝皮弁(IPAP flap)で再建した。複数の手術歴がある場合においても有効な再建方法であると考えられたため、報告する。

10. Transcaruncular approach と下斜筋切開を併用した swinging eyelid approach により治療した
眼窩内側壁・下壁合併骨折の 2 例

徳島赤十字病院 形成外科

○戸田 皓大

(5 分)

症例1. 49歳男性、左眼窩下壁骨折、内側壁骨折あり。症例2. 51歳女性。左眼窩下壁骨折、内側壁骨折あり。いずれも transcaruncular approach (経涙丘アプローチ) と下斜筋切開を併用した swinging eyelid approach により、眼窩内側壁・下壁合併骨折の治療を行った。このアプローチにより広範な術野の展開が可能となり、手術操作を容易にすることができたため、これを報告する。

休 憩 (18:20~18:30)

総 会 (18:30~18:45)

1. 次回研修会の日程

2. その他

特別講演(18:45~19:45)

愛媛県立中央病院 形成外科 中川 浩志 先生

「初回手術にも二次手術にも対応

ユニットでとらえる片側口唇裂手術のデザインと筋層処理」

講師:北九州市立八幡病院 副院長、形成外科 統括部長

田崎 幸博 先生

片側口唇裂手術のデザインはユニットごとに健側と照合しながら患側のポイントをマークすることでより個人の特性に合わせた自然な形状を構築できます。

筋層もこれに連動させるようにユニットごとに解剖学的な分離と牽引を行なうと、静的にも動的にも対称的な立体が作成されます。

ユニットとしてとらえると、初回手術においても二次手術においても何をどう再建すべきか把握しやすく、自然で安定した口唇を作成することができます。

略 歴

【現職】

令和 5 年 北九州市立八幡病院 副院長、形成外科 統括部長

形成外科専門医

日本形成外科学会小児形成外科分野指導医

日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医

熱傷専門医

日本創傷外科学会専門医

日本口蓋裂学会認定師

【職歴】

1989 年 3 月 長崎大学医学部 卒業

1994 年 3 月 長崎大学大学院 医学研究科 卒業 博士号取得

1989 年 長崎大学医学部 形成外科 研修医

1994 年 福岡徳洲会病院 形成外科

1997 年 4 月～98 年 12 月 愛媛県立中央病院 形成外科

1999 年 田川市立病院 形成外科

2002 年 北九州市立八幡病院 形成外科